11. 荒川地域

（1）荒川地域の概況

○　本地域は中心市街地の南西部で大滝地域との間に位置し、荒川の谷あいに配置された国道140号及び、地域内に５駅が設置された秩父鉄道を軸に集落や農地が広がっています。

○　将来都市構造では、田園集落ゾーン、森林・自然ゾーンに位置づけられています。

○　都市計画法をはじめとする、各種法規制の適用状況は以下のとおりです。

【荒川地域の位置】

根拠法	区域指定等
都市計画法	都市計画区域外
景観法	秩父市まちづくり景観計画の農山村地域
農業振興地域の整備に関する法律	農業振興地域
特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備の促進に関する法律	特定農山村地域
自然公園法に基づく埼玉県自然公園条例	県立武甲自然公園
森林法	公益的機能別施業森林（水源、山地災害/土壌、）・木材生産機能

【法規制の状況】

（２）荒川地域の地域特性

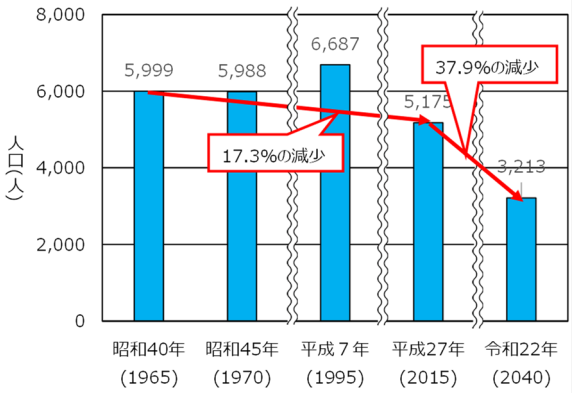
①人口特性

○　人口については、1995（平成７）年頃まで大滝地域や浦山地区からの移住者などによって増加傾向にありましたが、以降減少に転じており、2040（令和22）年には約3,000人程度にまで減少することが見込まれています。

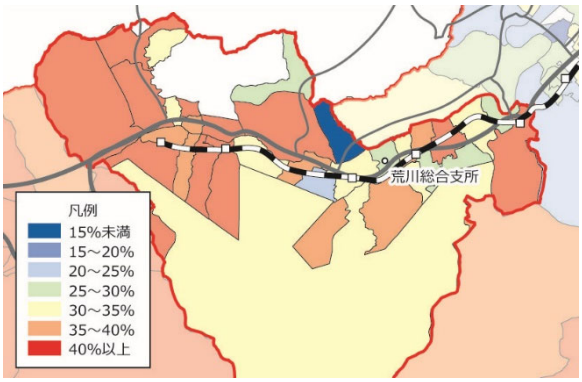
○　地区別にみると、白久・贄川など地域西側を中心に、支所の周辺部でも減少傾向が顕著となっています。こうした影響もあって、高齢化率は支所周辺で20～30%、周辺部や山間部では35%を超えています。

○　定住意向は、「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」とする回答が約７割を占めますが、市全体と比較するとやや低くなっています。

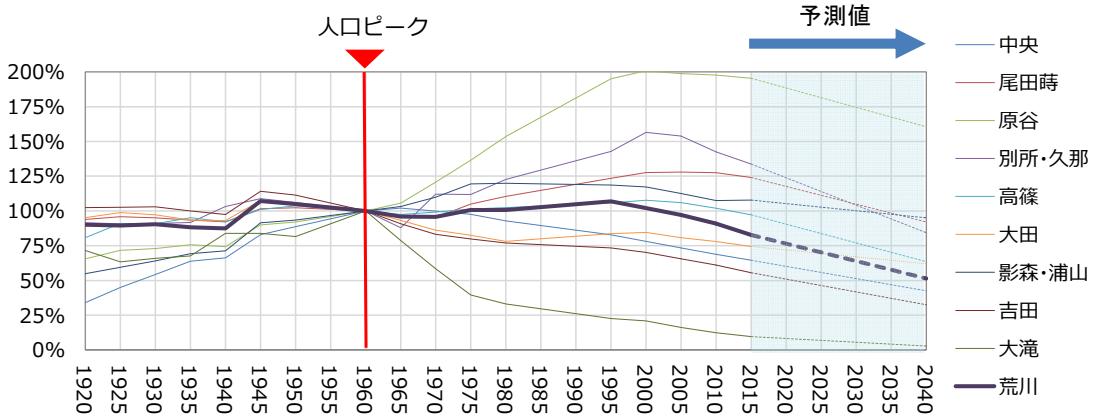
【人口動向（国勢調査）】



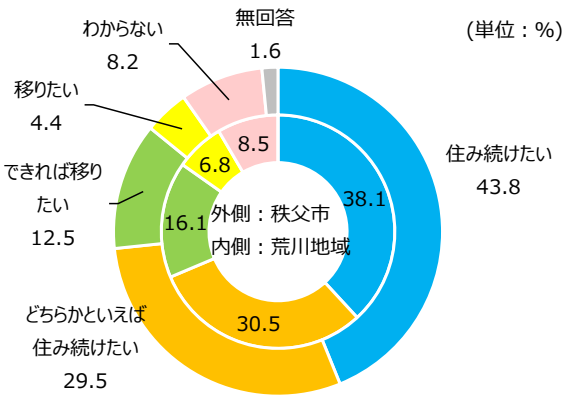
【町丁大字別高齢化率(2015(平成27)年･国勢調査)】



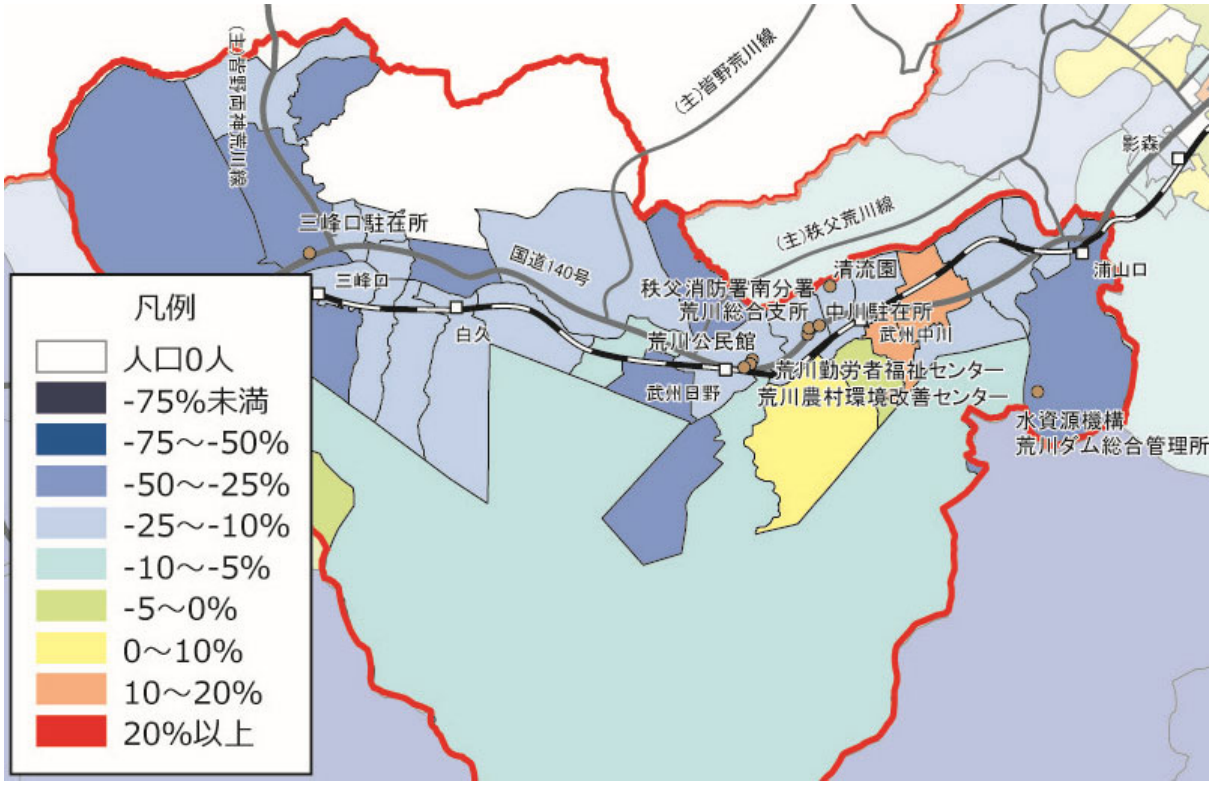
【1960(昭和35)年を100とした場合の人口指数の地域間比較】



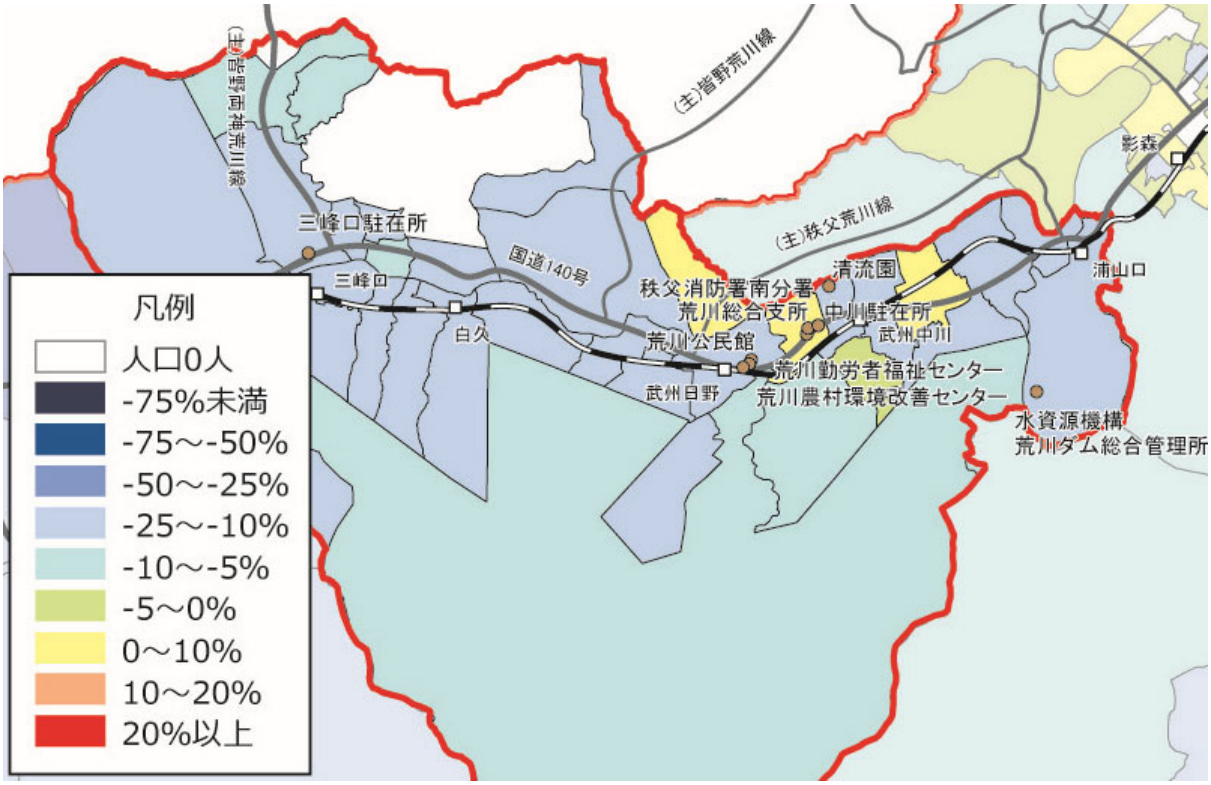
【定住意向（市民アンケート調査）】



【人口増減の動向(2005(平成17)年→2015(平成27)年人口増加率)】



【人口増減の見通し(2015(平成27)年→2040(令和22)年人口増加率)】



②土地利用･産業基盤･機能

○　土地利用のほぼ９割を農地や山林などの自然的土地利用が占めています。

○　南側の山間地と小野原の長尾根丘陵南端が県立武甲自然公園に指定される自然環境の豊かな地域です。

○　平地部は荒川沿岸の傾斜が緩やかな区域に限られ、住宅用地や農地となっています。また、山あいに土砂災害警戒区域に指定された区域が広く分布しています。

○　平地部の大部分が農業振興地域に指定され、近年ではそばの栽培が盛んになっています。しかし、高齢化・人口減少に伴う後継者不足から営農環境が厳しく、太陽光発電施設への転換も増えています。

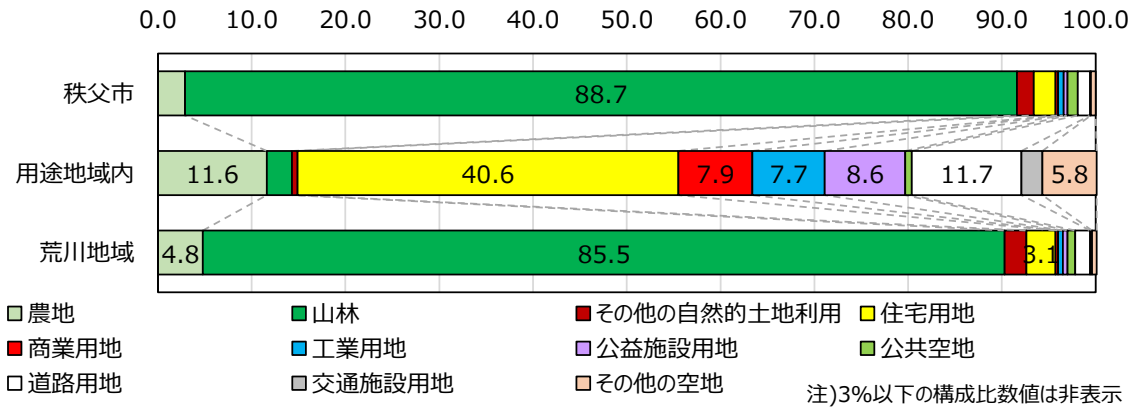
○　荒川総合支所周辺（荒川上田野）から荒川公民館周辺（荒川日野）の国道140号沿道にかけて行政サービス、教育、コミュニティなどの都市機能が集積しています。1,000㎡を超えるスーパーはないものの、荒川上田野には食料品スーパーやコンビニエンスストアが立地しており、地域の日常的な買物などを支えています。

○　大規模小売店舗や医療機関などの主な都市機能は、秩父鉄道や国道140号で結ばれた中心市街地の施設が利用されています。

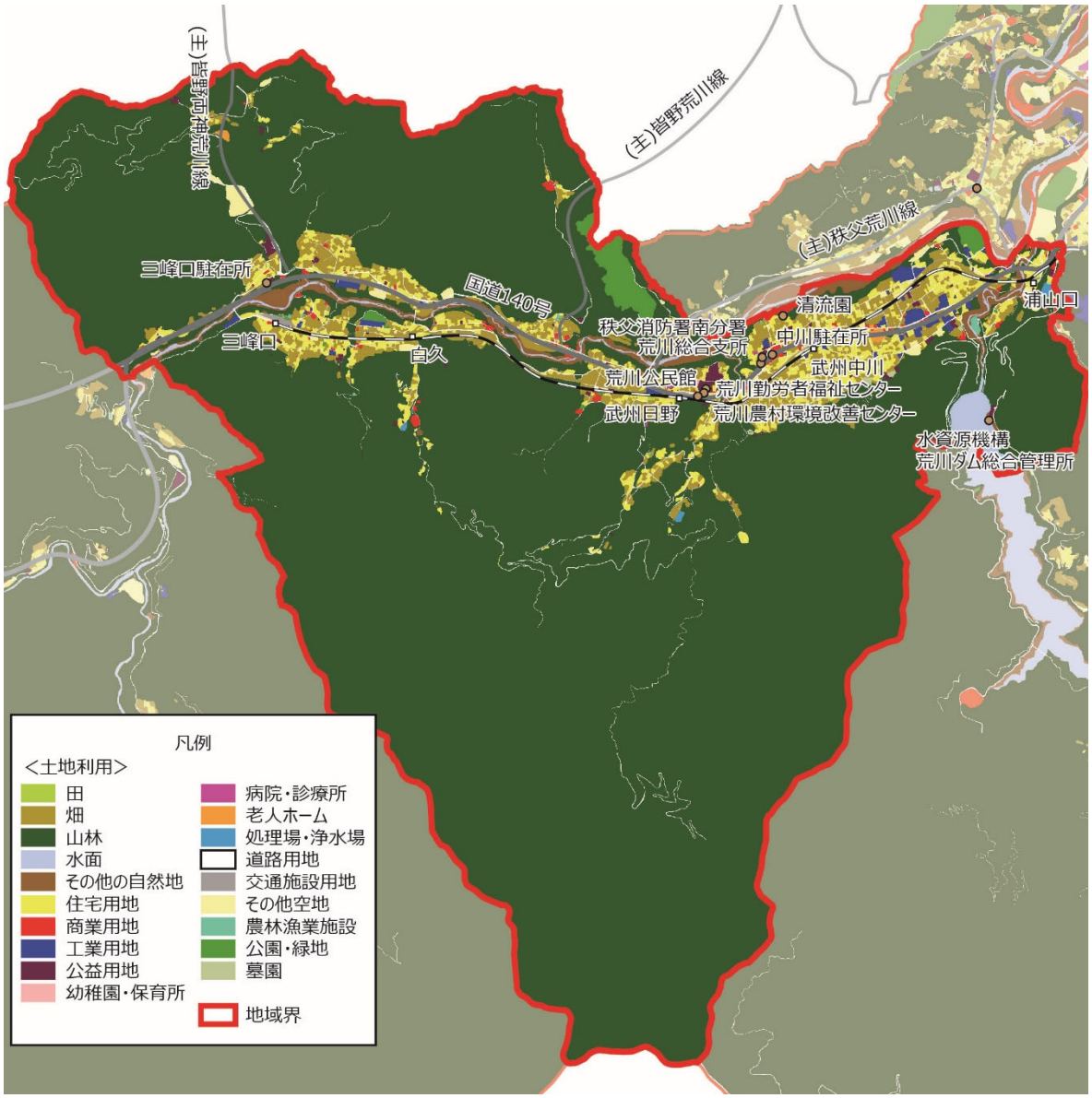
○　道の駅あらかわの周辺には、観光農園が集まるほか、宿泊施設やキャンプ場があり、観光の中心となっています。

○　秩父鉄道の終着駅となる三峰口駅は、大滝地域や小鹿野町両神地区との交通結節点であり、三峯神社参詣の玄関口となっています。

【土地利用現況（2016(平成28)年･都市計画基礎調査）】



【土地利用現況図（2016(平成28)年･都市計画基礎調査）】



資料：平成28年度都市計画基礎調査（土地利用）

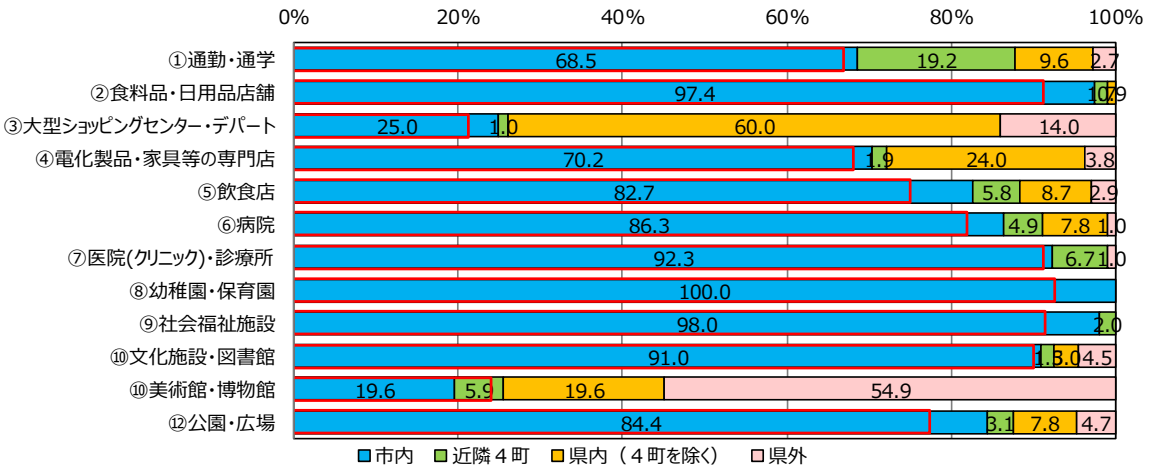
③居住環境特性（市民アンケート調査）

○　日常生活における目的ごとの主な行き先は、食料品の店舗など日常的に利用する施設を中心に、「市内」とする割合が市全体と比較して高くなっています。

○　住みやすさは、「住みよい」「まあ住みよい」とする回答が約65％で、市の平均を若干下回っており、その理由として、「買い物が不便」「通勤や通学が不便」「高齢者などにとって暮らしにくい」などが挙げられています。

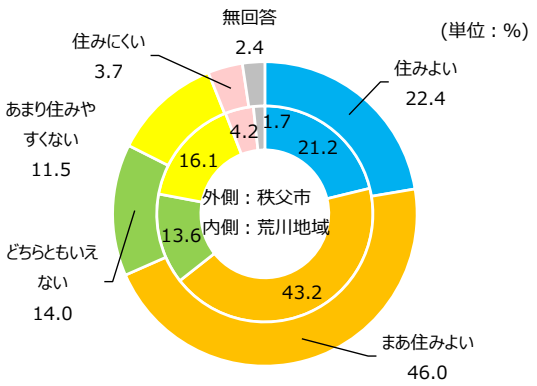
○　行きやすくしてほしい施設として、「医療施設」や「身近な商業施設」が上位となっています。

【日常生活における目的ごとの主な行き先】

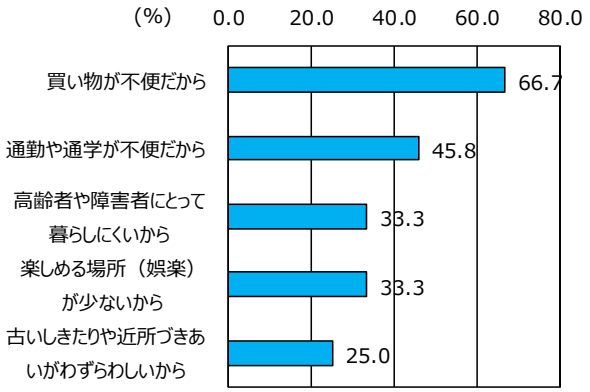


※赤枠表示は、行き先を「市内」と回答した市全体の回答者の比率

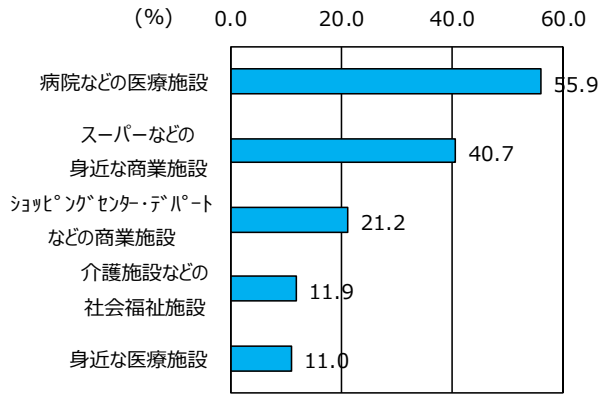
【住みやすさ】



【住みにくい理由】



【特に行きやすくしてほしい施設】



☆住民懇談会でこんな声が寄せられました・・・

＜定住や生活環境に関すること＞
・若い人の雇用の場が少ないことが人口減少や少子高齢化につながっていると思う。
・他都市と差別化する特徴的なまちづくりが子育て層の呼び込みに有効と思う。
・雇用の場を確保するため、市外から企業を誘致することが必要。
・水源地であることを魅力の一つとして活用すべきでは。

＜道路や公共交通に関すること＞
・企業誘致には国道 140 号バイパスの整備が不可欠と思う。

＜観光や景観に関すること＞
・通年型の観光地としなければ雇用は安定しないのではないか。

＜安全・安心に関すること＞
・高齢化が進行していて、災害時の要援護もままならない可能性がある。

④ライフステージに対応した施設

＜あらゆる世代が利用する施設（共通）＞

●荒川地域は、食料品等日用品を購入するためのスーパーが立地するほか、多様な公共施設が集積し、市西部の拠点としての役割が高まっています。
●診療所は２箇所が立地していますが、病院は、隣接する地域に立地する秩父病院や小鹿野中央病院など、地域・市域を越えての利用が必要となっています。

【商業施設等】

荒川地域においては、食料品等日用品を購入するためのスーパーが立地するものの、徒歩などによる利用が困難な区域があるほか、将来人口が3,000人程度であることを踏まえると、既存施設の維持が危ぶまれる可能性があります。このことから、施設の維持とともに、近接する中心市街地の商業施設を利用しやすい環境を構築する必要があります。

【医療施設】

地域医療を支える診療所は、現在は淺海医院（日野）や三上医院（上田野）によって支えられています。

病院については、秩父病院が比較的利用しやすく、影森駅を発着地とする送迎バスが運行されています。

【金融機関】

金融機関は、郵便局がその役割を担っています。事業者に対し広く融資を含む事業支援は、中心市街地に立地する金融機関を利用する必要があります。

【あらゆる世代が利用する施設（共通）】

ライフステージ	対象エリア	種別	具体例	交通手段	地域の課題（代替え案）
共通	圏域	行政	国や県の機関・本庁		
	地域	行政	荒川総合支所		
	地域	医療	淺海医院 三上医院		
	圏域	医療	秩父病院	自家用車 一部 送迎あり	交通手段の確保
	地域	買い物	ラコマート荒川店 ローソン荒川上田野店 他		施設の維持
	地域	銀行 郵便局	JAちちぶ荒川支店 荒川郵便局、上田野郵便局		

＜幼年期から学齢期に関わる施設＞

●こども園・幼稚園等の子育て支援施設、小中学校は地域全体を徒歩圏でカバーすることはできません。

●高等学校、大学は設置されていないため中央地域や、圏外への通学が必要です。

【保育所・認定こども園等】

民間施設の状況も踏まえながら、子育て環境の維持・向上に向けてサービス水準の維持に取り組むことが望まれます。

【小学校・中学校】

地域内には、小学校２校、中学校１校が設置されていますが、地区によっては必ずしも通学しやすい環境とはいえません。

これら学校教育施設は、地域コミュニティの核となる施設でもあることから、施設を維持するとともに、通学手段の充実や通学路の安全性の確保が求められます。

【高校・大学等】

高等学校は、地域の高等学校の魅力向上とともに、秩父圏域内外の高校へも容易に通学できるよう、公共交通による移動の利便維持・向上が望まれます。

大学などでは、圏外へ容易に通学できるよう、秩父鉄道影森駅以西の公共交通による移動の利便維持・向上が望まれます。

【幼年期から学齢期に関わる施設】

ライフステージ	対象エリア	種別	具体例	交通手段	地域の課題（代替え案）
幼年期	地域	保育所 こども園等	かみたのこども園	送迎バス 自家用車	
学齢期	地域	小学校 中学校	荒川東小学校 荒川西小学校 荒川中学校 荒川学童保育室 かみたのｷｯｽﾞｸﾗﾌﾞ	徒歩 送迎バス	交通手段の確保 施設の維持
高校	圏域 広域	高校	秩父圏域の高校 熊谷・飯能方面	ﾊﾞｽ･電車	交通手段の確保 施設の維持
大学 専門	広域	大学 専門	県内・都内	ﾊﾞｽ･電車	交通手段の確保

＜就労壮年期から老年期に関わる施設＞

●就労場所は、市内、秩父圏域をはじめ、熊谷・飯能方面や都内となっています。
●デイサービスセンターや在宅介護に関わるサービス支援は、移動距離がやや長くなるため、必ずしも効率的な利用、サービス提供が可能とはいえない環境にあります。

【就労場所】

幹線道路の整備等による道路ネットワークの向上、公共交通による移動の利便維持・向上が望まれます。

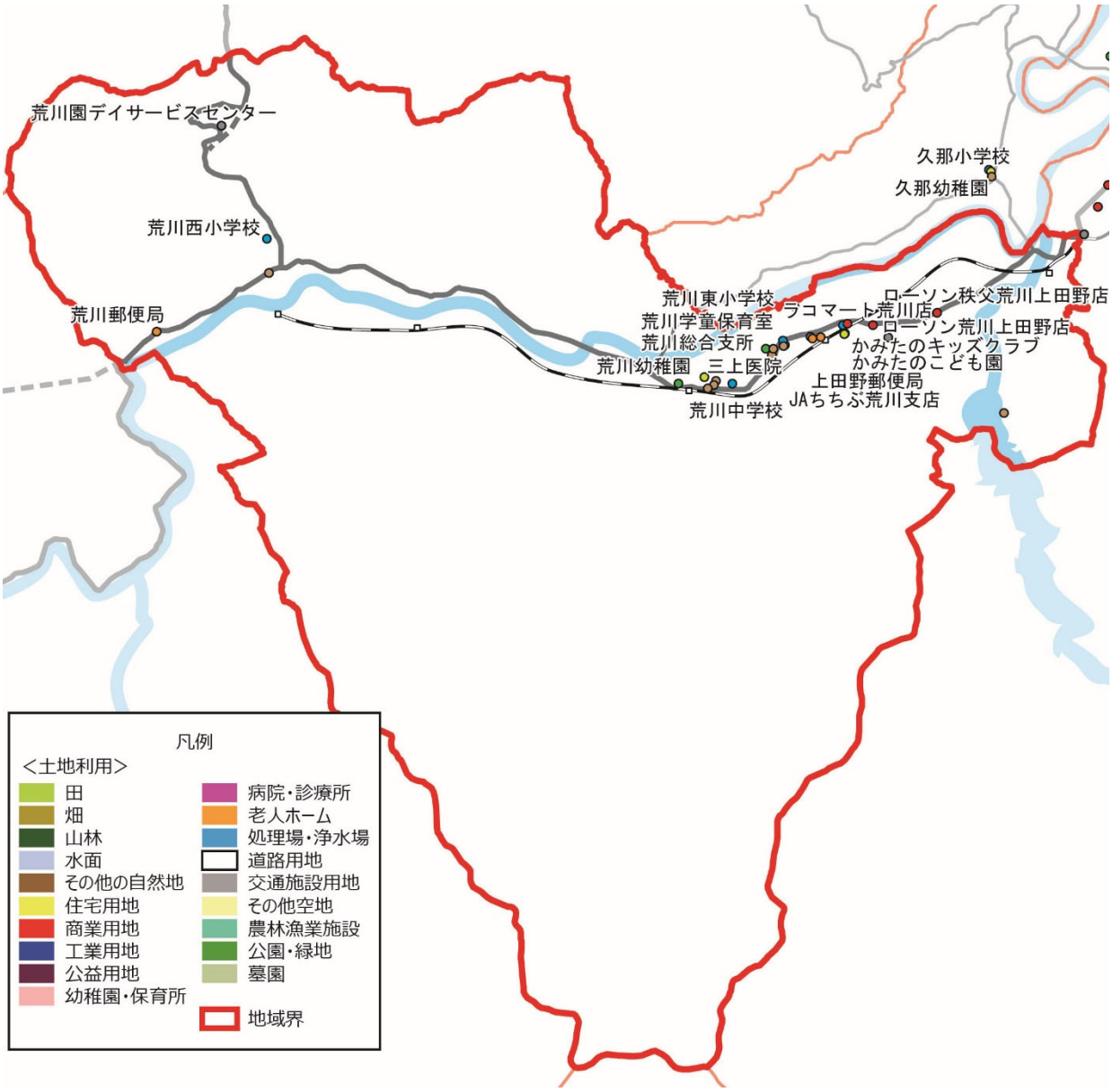
【在宅介護】

福祉･介護計画に基づき、地域の福祉サービスを維持･向上していくことが望まれます。

【老年期に関わる施設】

ライフステージ	対象エリア	種別	具体例	交通手段	地域の課題（代替え案）
就労 壮年期	地域 広域	雇用	市内、秩父圏域 熊谷・飯能方面、都内	自家用車 ﾊﾞｽ･電車	都内への電車交通 幹線道路等の整備
老年期	地域	在宅 介護	荒川園 （デイサービス･介護支援）	送迎	

【都市機能の配置状況】



資料：都市計画課

⑤道路、公共交通特性

○　本地域は、大滝地区を抜け山梨県を結ぶ国道140号により、市街地へアクセスしやすい環境にあります。また(主)皆野両神荒川線などの主要幹線道路を利用し、隣接する小鹿野町にもアクセスしやすい環境ですが、一部２車線確保がされていない区間があります。

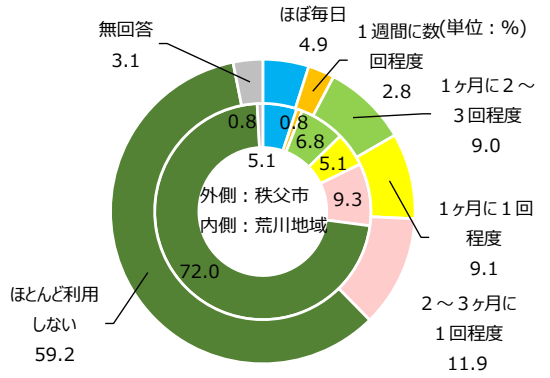
○　広域的な移動も含めた利便性を高める視点から、西関東連絡道路の整備の具体化が望まれます。

○　公共交通は、秩父鉄道の５駅がありますが、三峰口－影森区間は影森－熊谷区間に比べ大きく減便されています。路線バスは、市街地と浦山常盤橋を結ぶ市内線、久那経由で花見の里（上田野）と市街地を結ぶ久那線がありますが、荒川地域全域をカバーしていません。また、西武秩父－三峯神社を結ぶ三峯神社線の荒川地域内の停留所は、三峰口駅のみで地域内の利用はほとんどありません。そのほか、三峰口駅と小鹿野町を結ぶ小鹿野町営バスは、贄川地区の足となっています。

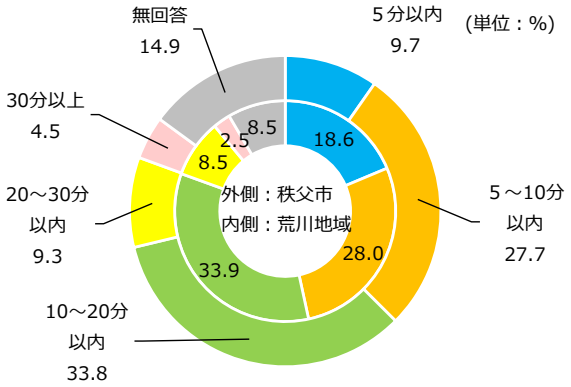
○　市民アンケートでは、鉄道駅５駅が地域内に設置されていることも背景に、公共交通の乗り場への所要時間は、10分以内が５割近くと、乗り場に比較的アクセスしやすい環境にあるものの、「ほとんど利用しない」が７割に達しており、公共交通があまり利用されていない現状がうかがえます。

○　高校・大学生の通学は主に鉄道が利用されているため、交通結節点における乗り継ぎ環境の充実など、公共交通ネットワークあり方を検討していく必要があります。また、高齢化に合わせ、地域内におけるデマンド交通のニーズが予想されます。

【公共交通の利用頻度（市民アンケート調査）】



【公共交通への所要時間（市民アンケート調査）】



⑥景観、観光、文化特性

○　景観については、地域の土地利用の大半を占める森林のほか、荒川を軸とした斜面林、段丘上部に広がる田園景観など、自然豊かな景観が形成されています。

○　観光については、道の駅あらかわを中心にブドウ・イチゴなどの観光農園、花見の里では荒川そば祭りが開催され、そば店は地域全体に点在しています。山あいには温泉旅館が、川沿いにはキャンプ場やアウトドアレクリエーション施設など、豊かな自然や環境を生かした観光業が盛んです。また、清雲寺のしだれ桜やそばの花など季節ごとの花を楽しむことができます。

○　文化については、古くから三峯信仰や秩父往還の宿場で栄えた贄川宿の街並み、各地域の寺社を中心に、無形民俗文化財の神楽や獅子舞、串人形芝居、甘酒祭、信願相撲など多くの祭りや行事が受け継がれています。

⑦防災、地域安全特性

○　地域の東部にあたる上田野地区は比較的平地部が広がっていますが、そのほかの地区は荒川と山に挟まれ、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域が広く分布しています。

○　地震については、埼玉県が想定する５つの被害想定では、関東平野北西縁断層帯地震（30年以内にほぼ0～0.1%）によって、荒川日野の一部などで震度５強の可能性があるほか、震度５弱が広範な区域で想定されています。

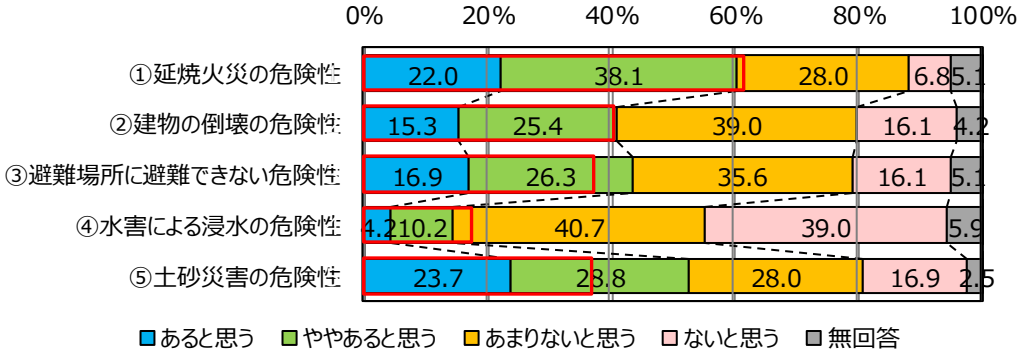
○　荒川の崖沿いが家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）、荒川総合運動公園周辺が浸水想定区域（想定最大規模）に含まれており、洪水時の避難困難が想定されます。

○　山あいの集落には建築年代不明の老朽空き家が分布しており、倒壊や火災への注意が必要です。

○　地域の住宅密度が低く、延焼大規模火災の可能性は少ないと考えられますが、山火事に対する注意が必要です。

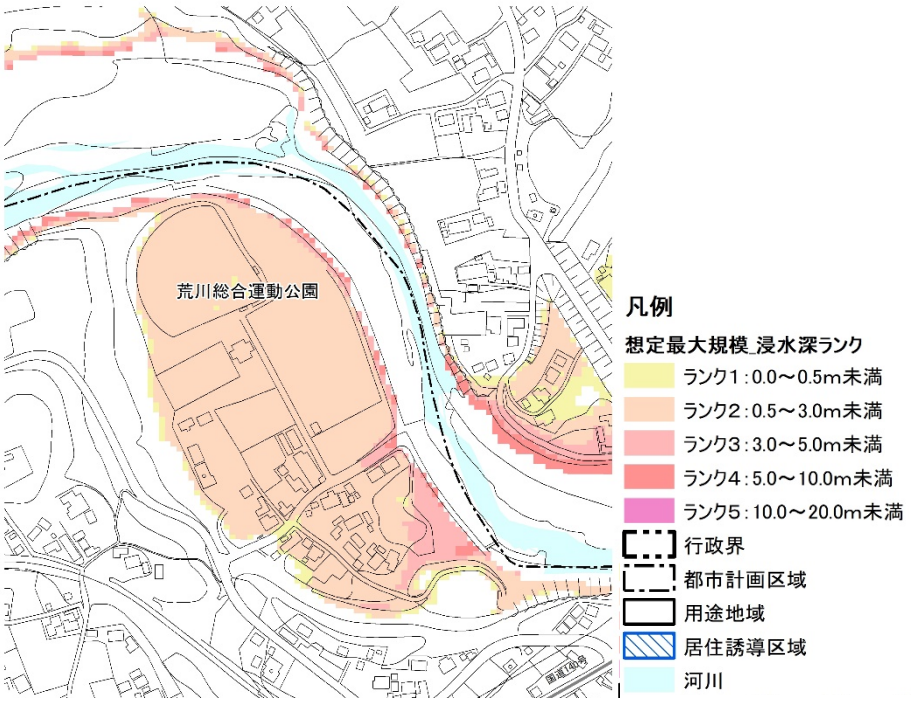
○　市民アンケートでは、地域における災害リスクについて「土砂災害の危険性」「避難場所に避難できない危険性」とする割合がやや高い傾向にあります。

【地域における災害リスク（市民アンケート調査）】



※赤枠表示は市全体の「あると思う」「ややあると思う」と回答した比率の合計

【浸水想定区域(想定最大規模)浸水深】(荒川総合運動公園付近)



（３）地域の将来像

地域の現状と将来動向、市民の意向とまちづくりの課題を踏まえ、荒川地域の将来像を設定します。

○市西部の暮らしを支える地域の拠点

荒川総合支所周辺を中心に集積する行政サービス機能や商業機能、医療機能などの多様な機能は、本地域のみならず、隣接する大滝地域の日常的な暮らしを維持する上で重要であることから、市西部を支える機能の集積地としての役割を果たすことができるよう、その維持・充実による地域拠点を形成します。

○特色ある農林業を豊かさにつなげるまち

「そばの里」としての知名度や観光農園、地域の農産物や加工品を販売する道の駅あらかわなど、地域の特色ある農林業の６次産業化により、森林や農地を守り活かしながら、地域における経済的な「豊かさ」も実感できるまちを実現します。

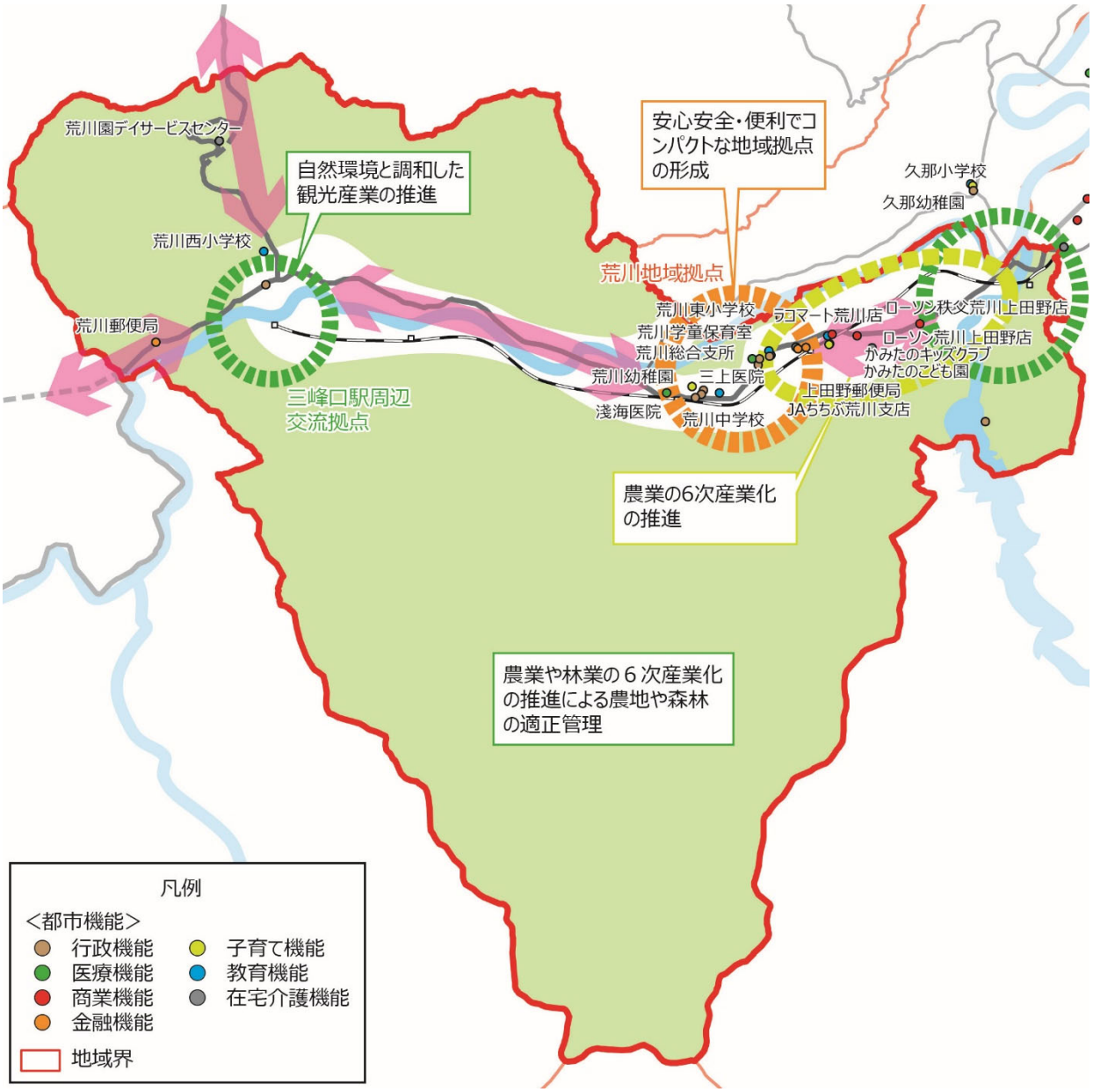
○国土と良質な水資源を守る自然エリア

秩父多摩甲斐国立公園に指定された優れた自然や、首都圏に良質な飲料水を安定的に供給する水源地として、適切な維持管理などを通じ、豊かな自然を保全していくエリアとしての役割を果たしていきます。

（４）地域まちづくりの基本方針

「地域の将来像」を踏まえ、荒川地域におけるまちづくりの基本方針を設定します。

【地域まちづくりの基本方針図】



①不足する機能の改善策

地域に不足するもののうち、特に対策が必要な機能については、次の方針のもとで改善に取り組みます。

対象機能・施設	改善の方針
商業施設	・機能の維持(既存施設への支援、道の駅などの施設の複合化など) ・大規模小売店舗が立地する中心市街地へのアクセス改善 ・移動販売に対する支援
病院	・秩父病院など市街地に立地する医療機能へのアクセス改善
高校・大学等	・秩父鉄道の利便性の向上 ・鉄道駅へのアクセス改善

②豊かさを実現する土地利用

『豊かさ』を実現するコンパクトでにぎやかな活力のあるまちづくりに向け、次の方針のもとで土地利用を誘導します。

・空き地を活用した土地利用の集約化や自然的土地利用への回帰
・山間地や災害危険エリアからの地域拠点への居住集約と老朽建築物の除却
・農業や林業の６次産業化の推進による農地や森林の適正管理
・自然環境と調和した観光産業の推進

（５）対流まちづくりの基本方針

人口減少が予測される中、大都市との交流拡大によって需要を取り込み、まちとしての機能を維持するため、観光振興によるまちづくりに取り組みます。

①交流を盛んにするアクセスの向上

荒川地域は国道140号によって市街地や東京･熊谷方面､山梨方面へと結ばれていますが、地域内には歩道が整備されていない箇所もあり、引き続き整備が必要です。また、西関東連絡道路の延伸による大都市とのアクセス向上も期待されます。

公共交通については、秩父鉄道が三峰口駅まで伸びていますが影森駅どまりの列車が多く、運行本数の確保が望まれています。また、西武鉄道の乗り入れにより東京方面へのアクセスは向上していますが、こちらも本数が限られています。

三峰口駅は、大滝地域の玄関口であるとともに、小鹿野町（両神地域）との交通結節点となっています。敷地内には秩父鉄道SL転車台公園が設置されているほか、周辺には新たな観光スポットとして、ジオグラビティパークの整備が進められるなど鉄道利用者の増加に期待がかかっています。

②6次産業化の支援

秩父地方は古くから養蚕が盛んで、荒川地域にもかつては多くの桑畑がありましたが、現在では60軒を超える生産農家がそばを栽培するなどそば畑への転作が進んでいます。荒川地域には「ちちぶ花見の里」を中心として、地粉の手打ちそば屋や体験施設が分布し、「そばの里」としての知名度が定着しています。また、道の駅あらかわでは地域の農産物や加工品が販売され、イチゴ・ブドウの観光農園やジビエ料理が人気です。

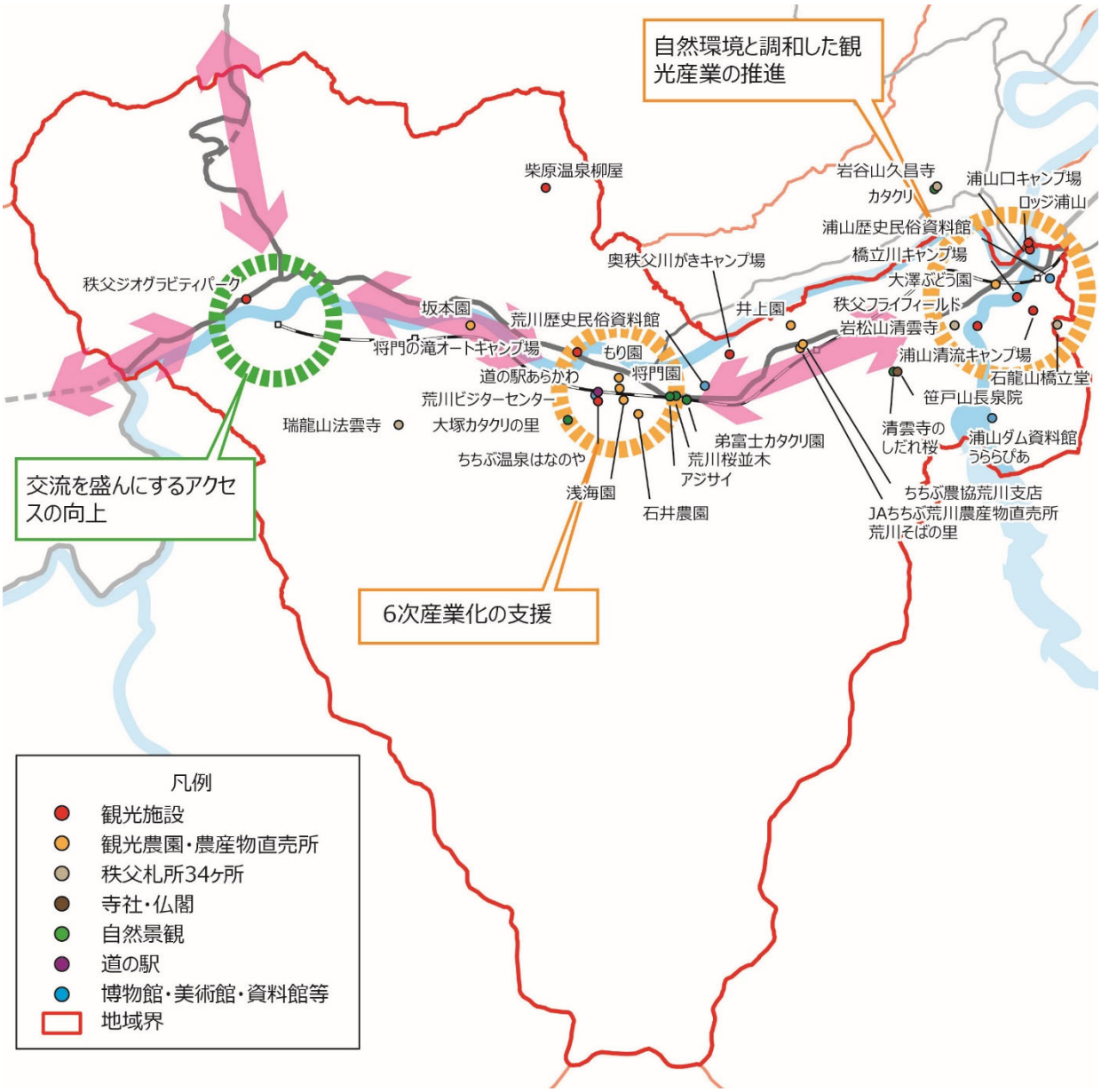
こうした６次産業化が進んだ地域の産業特性を、地域における「豊かさ」につなげるため、引き続き、農業を観光へと結びつける取り組みを支援します。

③自然環境と調和した観光産業の推進

季節の観光スポットとしては、清雲寺のしだれ桜やそばの花、観光農園がありますが、荒川地域には、秩父七湯と呼ばれる温泉のうち３か所があるほか、古民家を使った旅館や民宿など様々なニーズにあった宿があります。また、川沿いにはキャンプ場やジオグラビティパークがあります。

こうした豊かな自然の恵みを交流人口の拡大と地域の活性化につなげるため､引き続き、四季を通して楽しめる観光産業の推進に努めます。

【対流まちづくりの基本方針図】



（６）防災まちづくりの基本方針

市民の安全を守りつつ、同時に、コンパクトでにぎやかな活力のあるまちづくりを実現するため、防災の視点からのまちづくりに取り組みます。

①地域拠点における避難所･避難路の整備

荒川地域における指定避難所は､主要な施設のある日野､上田野地区に集中しています。このため､避難所に至る主な避難路は国道140号ですが､土砂災害特別警戒区域に含まれている箇所もあり､地域内で補完する機能をもつ市道の整備も検討していく必要があります。

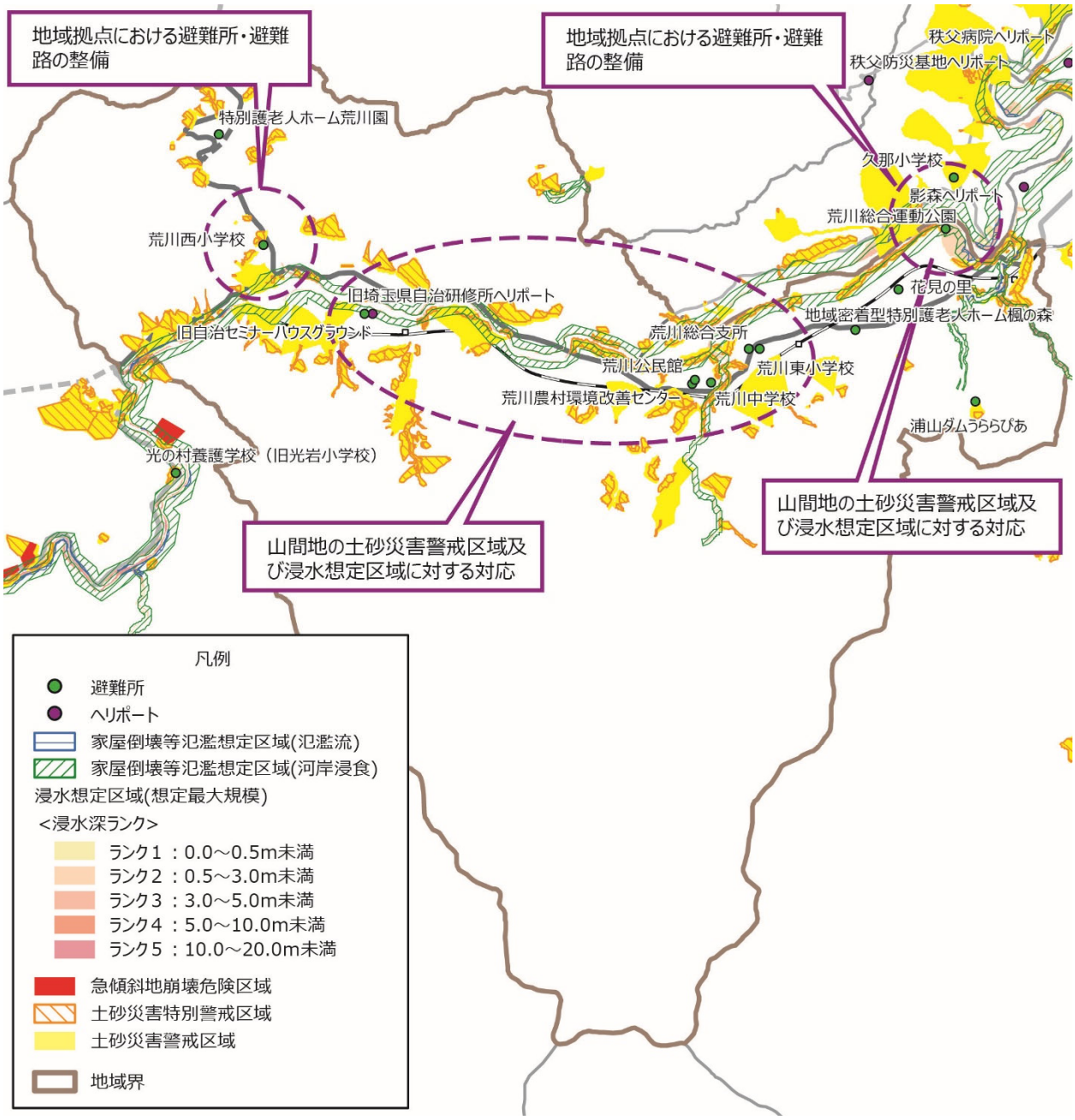
また、荒川西小学校（贄川地域）の背面は土砂災害（特別）警戒区域、荒川総合運動公園（上田野地区）は浸水想定区域に含まれているため、災害内容に合った避難所の適切な運営を図ります。加えて定住人口や交流人口の規模に照らし、収容可能な避難施設の配置を検討します。

②山間地の土砂災害警戒区域及び浸水想定区域に対する対応

山間地の土砂災害警戒区域、浸水想定区域などにおいては、台風や豪雨など事前に予測が可能な場合、防災無線やエリアメールを活用し早期の避難を呼びかけます。また、地震の際は避難経路の確保を図ります。

また、区域からの移転など、災害リスクのある区域からの退避を中心とした予防を検討します。

【防災まちづくりの基本方針図】



（７）将来像実現に向けた取組方針

「地域の将来像」及び「地域まちづくり」「対流まちづくり」「防災まちづくり」それぞれの基本方針を踏まえ、将来都市像を実現するための「取組方針」及び「主な取組」を、４つの基本目標を軸に示します。

１）基本目標1の実現に向けた取組方針
（「みんなが「総活躍」し、豊かさを感じられる日本一しあわせなまち」に向けて）

①安心・安全でコンパクトな暮らしやすい地域拠点の形成

＜荒川総合支所周辺･荒川公民館周辺＞

○　荒川地域の生活圏を支える既存の地域行政サービス機能を維持し、隣接する大滝地域を含めた市西部における日常生活の利便性を確保します。

○　荒川公民館周辺には、図書館、農村環境改善センターや中学校など多くの施設が集中し、いずれの施設も避難所となっています。近接する武州日野駅を含めた周辺環境の改善や機能向上に取り組みます。

○　既存店舗への支援や道の駅など施設の複合化により身近な商業の機能維持に取り組みます。また、機能の確保や施設へのアクセス改善が困難なところでは、移動販売など物流に対する支援に取り組みます。

②新たな居住環境の提供による地域コミュニティの維持

＜荒川総合支所周辺･荒川公民館周辺、国道140号沿道＞

○　空き地・空き家など低未利用地を活用し、居住環境の向上や移住・定住に向けた取り組みを進めます。

＜国道140号沿道･秩父鉄道沿線＞

○　持続可能な地域づくりのため､国道140号周辺や秩父鉄道沿線へ集落を誘導するとともに、地域コミュニティの再生を図ります。

○　利用が見込まれない空き地については、自然的土地利用の復元に向けた手法を検討します。

2）基本目標２の実現に向けた取組方針

(「さまざまな移動・物流手段に支えられた、ヒト・モノ・カネ＋情報が交流する活力あるまち」に向けて)

①ヒト・モノ・カネ＋情報が対流する連携軸の整備

<国道140号>

○　本地域と中心市街地を結ぶ主要な幹線道路として、必要な改良と適切な維持管理を、関係機関と連携し取り組みます。

<(主)皆野両神荒川線・(主)秩父荒川線>

○　中心市街地や隣接する小鹿野町中心部へのアクセス道路として、必要な改良と適切な維持管理を、関係機関と連携し取り組みます。

②ヒト・モノの対流を支える公共交通の確保

<秩父鉄道>

○　通勤・通学を含めた地域生活、また観光を支える機能として、利用利便性の維持・確保に取り組むとともに、地域住民に利用を働きかけます。

<路線バス>

○　鉄道と連携・調整を図りつつ、地域住民のニーズや観光ニーズを踏まえた運行を検討するなど、利用促進に繋がる取り組みを進めます。

<その他の交通手段>

○　病院への送迎バスの拡充など、医療・福祉政策や、事業者の取り組みと連動した、交通弱者への取り組みを強化し、地域内における利便性の向上に努めます。

3）基本目標３の実現に向けた取組方針

（「多くの人が訪れ、美しい自然環境と文化を堪能できるまち」に向けて）

①多くの人が訪れ、豊かさを実現する観光交流ネットワークの形成

<道の駅あらかわ>

○　来訪者へのおもてなしの提供や地域情報の案内など、多様な機能を備えた空間の形成と、来訪者が憩い、安らぐ施設にふさわしい周辺環境の保全と誘導に取り組みます。

<三峰口駅周辺>

○　鉄道による三峯神社、中津峡方面への玄関口、路線バスの乗り継ぎ場所として、交通結節機能や地域情報の案内機能などの充実を図るとともに、観光施設と連携した周辺整備に努めます。

②歴史文化を感じる交流拠点の形成

<贄川宿>

○　秩父往還の宿場町としての歴史文化的な街並みを保全するとともに、観光資源としての活用に向けた機能の充実を図ります。

③農業や林業の６次産業化の推進による農地や森林の適正管理

<道の駅あらかわ、三峰口駅周辺など>

○　農林業の６次産業化を進めるため、拠点化・集約化を行うとともに、観光施策と連動した取り組みを進めます。

４）基本目標４の実現に向けた取組方針
（「誰もが「安心・安全」に暮らせるまち」に向けて～）

①誰もが安心・安全に暮らせる環境の確保

<森林>

○　首都圏の水需要を支える水源地となっている森林は、水源かん養及び干害防備保安林など、関係法令のもとで保全します。

○　国土保全をはじめ森林の有する機能に応じた森林施業の促進による適切な維持管理に取り組みます。

<ハザードマップ等>

○　ハザードマップを周知・更新し、災害による被害を最小限に抑える″減災″への取り組みを進めます。

<居住機能>

○　地域拠点周辺への居住機能の移転などによって、市民の安全の確保とまとまりのあるまちの形成に取り組みます。

<土砂災害警戒区域等>

○　災害リスクの軽減を図るため、避難所や災害時要配慮者利用施設等が含まれる箇所から、優先的に土砂災害防止施設等の整備を検討します。

<避難体制>

○　荒川総合運動公園については、浸水に対応した避難施設を再検討します。